

り資料館、平和祈念公園と行きました。戦争は二度と繰り返してはいけないと思いました。

4日目は、2014年から辺野古新基地建設の反対運動をされている仲宗根氏に現地を案内して頂きました。このような活動をされている方は、やはり「言葉に重みがあり芯がしっかりしている」と、自分にはそう感じました。ゲート前に座り込んで工事車両を止めようとする約80名の人々を見て「同じ日本なのに沖縄では大きな問題がある」と色々考えさせられ

複雑な気持ちになりました。数の力の凄さを知った反面、なぜもっと人が集まらないのかと疑問を抱きました。自分や家族、身近な人の問題なら動こうとする人は多いはず、しかし、沖縄の人口146万人に比べると余りにも少なく、沖縄には関心がある人が少ないのかと感じました。

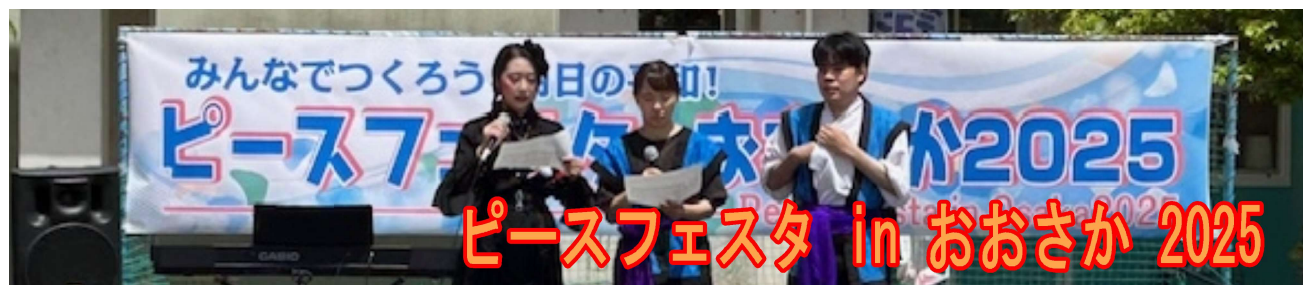
仲宗根氏からは「現状では基地建設を止める事は難しく、遅らせる事しかできない」と言っていました。難しい話ですが、他者の問題を自分の問題として捉える人が

増えれば、少しは平和になるのかと思いました。

最後になりますが、沖縄についてももっと知ろうと思えた4日間になりました。三単産、沖縄地本の方々、仲宗根さんありがとうございました。

平和行進に参加して平和に対する思いや、反戦に対する思いが今まで以上に強くなりました。これからもこのような活動をしていきますので団結して頑張っていきたいです。

青年部事務局次長 津村 拓哉



5月11日（日）、いくのパークにて「ピースフェスタinおおさか2025」が開催されました。7組によるライブステージや20もの模擬店の出店・出展により、また天候にも恵まれ多くの人でにぎわいました。

ピースフェスタは、今年で3回目の開催でしたが、まだまだ周知が足りず、何かと思う方も多いことでしょう。

私たち全港湾は、日頃から労働運動のみならず平和運動にも力を注いでいます。特に平和運動のひとつに集会参加・デモ行進を想像されるでしょう。もちろん大切な取り組みで、現場の声を聴いて大きな教養となります。そういった取り組みから少し趣向を凝らし、「誰でも参加しやすく楽しめるイベントを」と企画されたのがピースフェスタです。

現在世界では、戦争や紛争が絶えず、多くの人の命が失われている

ます。日本国内でも中国による台湾有事と決めつけ、国民に「不安」と「防衛の必要性」を煽っているかとも思えます。特にここ10年、急速に軍事化が進んでおり、沖縄を中心とした南西諸島、辺野古新基地建設をはじめとする琉球弧の島々の軍事要塞化が進められています。



また、私たちにも大きな影響をもたらせかねない、各地の空港や港湾を「特定利用空港・港湾」に指定し、軍事訓練等で使用できるよう整備・拡充する動きを見えています。そのような戦争できる国づくりへと邁進する日本政府に反対の声を上げて訴えていかなくて

はなりません。

近年、日本各地で地震や豪雨によって被災が相次ぎ、多くの人命が失われています。自然災害は防ぐことはできませんが、原発事故は東日本大震災の教訓から防ぐことはできるはずですが。二度とあのような惨劇を繰り返さないためにも「NO!」を突きつけなければなりません。

世界中で平和に対する多くの問題が山積しており、そのほとんどが差別から始まっています。全ての差別は戦争への道です。いかなる戦争行為や差別に反対し、このピースフェスタが世界平和の一端を担えるように継続していくことが重要です。もっと多方面に発信し、もっと大きな取り組みにしていかなければなりません。次回は組合員の皆さんも家族や友人を誘い合わせの上、来場して楽しんで頂ければと思います。

(副執行委員長 横山 貴安基)

港湾部会学習会

5月30日に畠山昌悦関西地本執行委員長を講師としてお招きし、大阪支部港湾部会学習会を開催しました。学習会には大阪支部港湾部会、執行部あわせて30名の参加者が集まりました。

学習会では、畠山委員長が自ら作成された資料をもとに、三・三答申を参考資料として、全港湾発祥の歴史から港湾労働法制定への動き、そして当時の秘話など歴史を深く知ると共に、わたしたちが当たり前のように享受している労働環境や福利厚生への成り立ち、そして今後の課題に至るまで学習す

ることができました。

畠山委員長には、このような学習会ができたことにお礼を申し上げると共に、時間の短さで資料の要点だけを講義して頂く形になってしまったことがとても心残りとなりました。今回、1つの学習が終わったのではなく、1つの学習が始まったと感じました。今後も畠山委員長をお招きし、頂いた資料を深掘りしていけるような学習会を開催して、もっと多くの組合員が参加してもらえたらと考えています。

(港湾部会事務局長 佐久原智彦)



参加者間で活発な意見交換が行われました。

2日目は、午前9時からの交渉に向けて衆議院議員第2会館へ移動し、国土交通省および厚生労働省との交渉を実施しました。事前に提出していた要請書に対する文書回答をもとに、質疑応答が行われました。3時間を超える意見交換の中では、全国各支部から集まった仲間たちの現場に根ざした率直な意見が交わされ、今後の課題に向けた議論が活発に行われました。

大阪支部からは、陣内副委員長より、標準的運賃の実効性やトラック物流Gメンの現状と課題について発言がありました。また、南野執行委員からは、現場の声として「運賃が上がっても労働者に還元されていないのではないか」との指摘や、「65歳定年延長」および「再雇用者における同一労働同一賃金の実現」に関する質問が出され、関係省庁との間で踏み込んだ協議が行われました。



制度や法改正が目まぐるしく進む中で、現場の課題を的確に伝える、制度・政策要求を強めていくことが重要です。今回の会議で得られた学びと議論を今後の活動へしっかりと活かしていきたいと考えています。

(車両部会長 南野 一樹)



中央海コン・トラック・バス合同対策会議

2025年6月3日から4日にかけて、東京都大田区の日港福会館会議室にて、全港湾中央本部による第2回海コン・トラック・バス合同対策会議が開催されました。

本会議には、中央本部・畠山副委員長をはじめ、全国から28名が参加し大阪支部からも代表2名が出席しました。

初日は、鈴木誠一中央執行委員長より、第15回「国際海上コンテナの陸上輸送に係る安全対策会

議」等の報告が行われた後、各地方の活動報告と、翌4日に予定されている要請行動について議論が交わされました。

また、交運労協事務局長・慶島譲治氏を迎え、「2024年問題の課題と対策について」の学習会が開催され、労働現場で直面している課題とその対応策について理解を深めました。続いて、畠山副委員長よりトラック業界を取り巻く現状についての情勢報告が行われ、